

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105628
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの丘
所在地	松山市梅津寺町乙56-214
自己評価作成日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

梅津寺の高台にあるためテラスからは瀬戸内海が一望でき、リビングの広い窓から四季折々の景色を楽しむことができます。夏には三津浜の花見大会をベランダから見ることができ、入居者様も毎年楽しみにされています。リビングや廊下も広く車椅子の方でもゆとりがあり、落ち着いて過ごせるようになっています。また浴室にはリフト浴を設置し安全に入浴することもできます。また、地域とのつながりも大切にしており、盆踊り大会や祭りなどの行事により周囲の人と触れ合う機会も多くもっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海を見渡せる高台に建つ事業所は、風通しがよく爽やかな印象を受ける。事業所内も大変清潔感があり、すみずみまで掃除、整理整頓が行き届いている。嫌な臭いも一切なく、感染症の予防等にも力を入れている。開設して10年になるが、徐々に地域の方とのつながりも増え、交流が深まってきている様子が伺える。利用者が重度化し終末期を迎えても、継続して事業所で過ごしてもらえるよう、看取りには積極的である。事業所で過ごすことにより家族の負担を軽くしながらも、出来る限り残される家族に悔いの残らないよう、家庭で穏やかに最期を迎えるのと同じように、職員が一丸となって支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの丘

(ユニット名) うみユニット

記入者(管理者)

氏名 岩城 恵子

評価完了日 42278

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意識を踏まえた事業所の理念を作成し、職員や来客者の目にとまりやすい場所に掲示している。またユニット理念を別に掲げそれに基づいたケアを日々行っている。	
			(外部評価) 法人全体の基本指針や理念を、廊下に掲示している他、ユニットごとの理念も、職員が皆で考えて作成している。その理念を出入り口ドアに貼ることで、来訪者・職員共に常に目につくように工夫している。「傾聴」という理念には特に思い入れが強く、利用者は皆、自身の思いを表出しにくい状態であることを理解し、訴えのサインを見逃さないよう、慎重に耳を傾けて聴くことを大事にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内役員のもと行事(盆踊り・運動会・文化祭・秋祭り)には、利用者も一緒に参加することで地域の方との交流が図れている。また事業所からも町内清掃に参加したり神輿を担ぐなどし地域の一員として役割を果たすよう努めている。	
			(外部評価) 盆踊りや地方祭など、地域行事には積極的に参加しており、地方祭では男性職員が神輿の担ぎ手として頼りにされている等、地域と事業所がお互いに助け合って交流している様子が伺える。地域の行事に招待され参加するだけでなく、事業所から積極的に地域へアプローチしていくことで、年々交流が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などの機会を利用し、グループホームでの生活を知って頂いたりしている。また地域の方々が気軽に見学・相談できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月毎に開催している運営推進会議では地域の方々と意見交換を行っている。また家族や利用者にも参加して頂きホームでの生活について話しをして頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、毎回多くの出席者があり、民生委員が近隣の方を連れてくる等、徐々に参加者が増え交流の輪が広がっている。会議の内容については、事業所での外出行事の様子の報告や認知症についての講話など、毎回職員間で相談し、参加者からも希望を募って検討している。家族の参加が少ないことが課題であると感じている。</p>	<p>グループホームという場で最期を迎える場合の、理想的とも言える看取りの事例も多くあり、それらに関係機関や利用者家族等に伝えていくことで、家族等の安心感につながるものと思われる。今後は、運営推進会議の場等を活用し、看取りができる事業所であることをさらにアピールしていくことを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村担当者や地域包括支援センター・社会福祉協議会の職員にも参加して頂き、事業所の報告や意見交換をしている。また電話や直接訪ねたりすることで相談にもものって頂いている。</p> <p>(外部評価) 市の担当課職員や地域包括支援センター職員とは、日頃より交流があり、相談したりされたりする関係性が構築されている。特に地域包括支援センター職員とは、やり取りが頻回にあることもあり、お互いに相談しやすい関係性ができている。事業所の職員が地域包括支援センターへ出向く機会も多い。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束については勉強する機会を設け、職員全員が理解・把握できるようにしている。玄関は施錠せず入居者が自由に散歩できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 事業所の玄関、ユニット出入り口ともに施錠はしておらず、自由に出入りができる状況であるが、ドアの開閉時にチャイムが鳴るようにしており、安全面にはきちんと配慮されている。また、ミトンや抑制帯等は一切使用せず支援を行っており、転倒のリスクを家族等へ充分説明した上で、細心の注意を払って見守りを行っている。</p>	<p></p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についても勉強会を行っている。またショートミーティングで意見交換を行い、虐待を未然に防ぐよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部勉強会や外部研修で学ぶ機会を作ってる。外部研修に参加した職員には、ユニット会議で報告するようにしている。また必要と考えられる利用者が活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約又は解約、改定時には入居者様や家族様に十分な説明をし、その際不安や疑問はないか訪ね、理解・納得して頂けるようにしている。また問い合わせがあれば早急に対応できるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話連絡の際、事業所から積極的に意見・要望をお聞きするようにしている。玄関に意見箱を設置し、投稿できるようにしている。	
			(外部評価) 家族との信頼関係構築は、とても重要な事柄であると考えており、管理者の指導の下、職員は皆、面会に来られた家族等とのコミュニケーションに積極的である。面会時に日頃の様子を細かくお伝えしたり、希望を伺う等、月に1回、各ユニット長が家族あてに利用者の様子を記載した手紙を送付している。一枚一枚手書きされた手紙には、職員の利用者を思う優しい気持ちが伺える。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のショートミーティングや月1回のユニット会議に職員の意見や提案を聞き、本部で行われている月2回の管理者会議でその内容を報告している。 (外部評価) 毎日行うショートミーティングは、職員間の情報交換・情報共有には大変有効である。また、日頃の気付きや不安感等は随時ユニット長や管理者に相談できる環境であり、管理者も気になる様子があれば積極的に声を掛けるよう留意している。年に一度、管理者と面接をする機会を設けている。産休明け間がない職員や子供がまだ幼い職員もいるが、お互いに助け合ってシフトを調整し、皆が気持ちよく働きやすい環境作りを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個別での面談を行い、各自がやりがいや向上心を持って安心して働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員に積極的に外部研修に参加してもらっている。研修後、レポートを作成し他の職員に伝えることで知識や情報を共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡会や地域包括支援センター主催の会に参加した際、意見・情報交換を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 生活歴や既往歴を踏まえた上で現在本人が困っていること・不安に思っていることはないか探り、安心して暮らしていただけるような関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、家族等から暮らしに関する悩み・要望・願いに耳を傾け、職員間で情報を共有し解決できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者と家族が今何を優先して必要としているのか納得するまで話し合い、対応できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人ができることは見守り、できないことはさりげなくお手伝いさせて頂く事で支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には情報や要望をお聞きし一緒に考え、協力を得ながら支えていけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの病院は引き続き利用している。また入所前からの馴染みの方とも電話や面会も自由にして頂きこれまで大切にしてきた方との関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 入居前からのかかりつけ医や美容室を継続して利用できるよう支援している。また、以前からの友人や近隣の方の面会も多く、馴染の関係性が途切れないよう職員は常に気を付けている。自宅にいた頃からのかかりつけ医が、面会に来てくれる等、事業所は気軽に訪れることができるオープンな雰囲気である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事やレクリエーションは入居者全員が参加し、職員はさりげなく間に入り関わり合えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次所にはサマリーを提供し環境変化に対応できるようにしている。サービス終了後も必要に応じ相談にのれるような態勢を作っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入浴や食事などの希望にできるだけ応えるようにし、利用者の生活のペースを大切にしている。自己判断が困難な場合でも、利用者のさりげない言葉や表情からも本人の思いを探るよう努めている。 (外部評価) 事業所開設当初から比較すると、利用者の重度化が進行しており、思いや意向を表出しにくい利用者が増えてきている。日頃の様子や表情、ちょっとしたサインを見逃さないよう、職員は常に注意を払っている。また、家族からの聞き取りも積極的に行い、利用者や家族の意向に沿った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 介護計画に本人や家族の意向を取り入れ、毎日ケアプランのチェック表を活用し経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録に細かく記録し、申し送りノートや毎日のショートミーティングで問題点や個別の支援方法を話し合い、職員全員で把握し実行するようしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画評価表を作成し毎日状況をチェックし、また毎月のユニット会議でも職員全員で話し合いモニタリングをしている。また家族や本人の希望を取り入れながら職員同士で意見を出し合い介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者毎に担当の職員を決めており、主にその職員が中心となってケアプランの原案を作成したり、モニタリング等を実施、記載している。また、ケアプランに位置づけた目標は、日々達成しやすい身近な事柄に設定されている。それぞれの目標が、達成できたかどうかの「評価表」を独自様式で作成し、毎日チェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録には会話・行動などや実践したケア内容・結果や気づきを記入し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望があれば通院介助や買い物など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事にはできるだけ参加し、地域資源との協働を図っている。また入居者の行方がわからなくなった時は、町内放送など地域に協力して頂けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療連携している病院の往診を月2回受けているが、馴染 みの病院を受診されている方もおられる。また必要に応じ歯科 や専門科への受診にも同行している。	
			(外部評価) 入居前のかかりつけ医に引き続き外来受診している利用者も おられ、職員が外出を支援している。往診可能な協力医がお り、月2回の定期的な診察の他、緊急時には24時間体制で 対応してもらえる。また、近隣の歯科からの訪問診療体制も 整備されている。その他、皮膚科等へは職員が介助して受診 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職からアドバイスを受けてたり随時相談もしているが、往 診表を作成し職員全体で活用している。それにより適切な受 診が受けられるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院になった場合は、面会に行き病院関係者との情報交換し ている。また退院後の受け入れ体制も相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の対応に係る指針を作成し説明している。話 し合いを重ねホームでできることについて家族の承認を得て いる。段階ごとに家族の意向を確認している。	
			(外部評価) 入居時に、家族や利用者の希望に応じて、最期まで事業所で 看取ることができる旨説明している。これまでに数名看取っ ており、職員も徐々に経験を積み上げている状況である。病 状が悪化し一旦は入院したものの、最期は事業所で迎えたい と希望され、退院し事業所で家族や職員に見守られて最期を 迎えることができた利用者もおられる。穏やかに自然に、家 庭と同じような環境で最期を迎えることができるように心掛 けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて外部研修に参加したり、ホーム内での勉強会をおこない実践できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に西消防署の職員に来て頂き訓練指導を受けている。隣接している有料老人ホームに専任の防火管理者を配置し災害時の協力体制を築いている。	
			(外部評価) 隣接する有料老人ホームで食料品と水を備蓄している。事業所が高台にあるため、津波や水害時には避難せずに事業所内にとどまるようにと消防より指導を受けており、近隣住民が避難してくることも想定した量を備蓄している。年2回の避難訓練の他、職員間で避難手順の確認等を行い、実際の災害時に慌てずに行動できるよう訓練を重ねている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 不適切な言葉になっていないか職員間で話し合い注意しあうようにしている。人生の先輩であるということを常に念頭に置きケアに努めている。	
			(外部評価) 常に、利用者が不快に感じないことを最優先し、洋式便座での排泄介助の際には、膝の上にタオルを掛けて隠すように心掛ける等の配慮している。また、声掛けについても、その方の好みに合わせた対応や、場面に適した対応を臨機応変に行うように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる限り選択肢の多い中で自分が決められる「開かれた質問」をするよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の生活のペースを大切にし、入浴や食事の希望にもできるだけ応えられるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿って、身だしなみやおしゃれができるようにしている。季節に合った衣類が身につけられるよにアドバイスもさせて頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みや季節のものをメニューにできるだけ取り入れるようにしている。コミュニケーションがとれるよう職員を配置し楽しい雰囲気づくりに努めている。食器やテーブル拭きなど片付けも一緒に行うようにしている。	
			(外部評価) 法人の栄養士があらかじめ立てている献立を、事業所でアレンジしてメニューを決め、食材を宅配してもらっている。調理は職員が交代で行っており、手作りの出来立ての料理を提供している。また、最近は利用者が重度化しており、ミキサー食やきざみ食の方も増え、食事介助が必要な方も多いが、皆で楽しく会話をしたり声掛けをしたりしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人の状態や好みに合わせて食事内容・食事量や食事形態を変えているが、栄養バランスにも配慮している。ペットボトルや水筒にお茶を入れ居室でも自由に飲めるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。できるだけ自分でして頂くようにしているが、十分にできていない時は仕上げを手伝うこともある。口腔内の観察は行い異状があれば訪問歯科診療も受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 訴えのない利用者には排泄管理表を活用し排泄パターンを探り、時間誘導により失敗のないよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の重度化によりおむつの方が多いが、排泄のパターンを把握することで、排泄後できるだけ早くおむつ交換ができるよう心掛けている。また、トイレで排泄する利用者も含め、排便後は毎回薄めた石鹸水で洗浄するようしており、日々の清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操を行ったり、水分補給もしっかり摂って頂くようにしている。乳製品（牛乳やヨーグルト）や植物繊維を多く取り入れよう調理工夫し薬に頼らないよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望日・時間に合わせて入浴して頂いている。マンツーマンでゆっくり話しをしながら入浴を楽しめるよう努めている。	
			(外部評価) 曜日を決めず、利用者の希望に応じて入浴してもらっており、概ね週に2～3回のペースである。浴槽にはリフトが設置されており、重度の利用者も浴槽でゆっくりと湯に浸かることができている。歩行状態が自立している利用者も、浴室では転倒の危険性が高いため、必ず見守りを行い、安全に入浴できるように留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 季節に応じた衣類や寝具を用意し、気持ちよく眠れるよう支援している。室温・湿度・騒音にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ボードやファイルを作り職員全員把握できるようにしている。また服薬時には声に出して本人と確認し服用して頂いている。症状変化や経過は口頭申し送りと記録に残し主治医に報告し指示を仰いでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の生活歴を把握し、好きなことや得意なこと、楽しみごとなどを生活に取り入れ張り合いのある日々が過ごせるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子や歩行器でも安全に散歩できるよう敷地内は整備されている。車での外出については下見を行った上で実行している。町内役員の方により盆踊り大会や運動会等地域の行事には優先席も準備して頂いている。 (外部評価) 月に1回は外出ができるよう計画し、外食をしたりドライブをしたりしている。車いすの利用者が増えてきたこともあり外出も容易ではないが、少しでも季節の移り変わりを感じ気分転換をしてもらいたいとの思いから、職員のシフトを調整して対応している。また、天気の良い日には敷地内を車いすで散歩する等、少しでも外へ出る機会を多く持てるよう心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭管理できる利用者には、家族の了解を得て自由に使えるよう所持して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取り次ぎはもちろん利用者から家族に電話できるようなにもしている。手紙についても、書いて頂いたものはポストへの投函もお手伝いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下やリビングは広く、落ち着いて過ごせるようになっている。また浴室やトイレ以外でも常に清潔に気を配っている。リビングの壁の一角には利用者と一緒に作成した季節感のある飾りつけをしようとしている。 (外部評価) 共用スペースは、きちんと整頓され掃除が行き届いており、とても快適な空間となっている。季節に応じた飾りつけを利用者と共に作って飾ったり、日付が分かりにくくなっている利用者のために、大きな日めくりカレンダーを貼って、毎日めくることを目標とする等、利用者と共に楽しく過ごせる空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファが置いてあり、自由にくつろげるようにしている。ベランダにはゆっくり座って海を眺められるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には昔から使っていた家具や馴染みのある物を置き、居心地よく過ごせるようにしている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が個室内の環境整備を行っている。自宅から鏡台やロッキングチェアを持ってきてもらったり、小物や写真を飾る等、家庭的な雰囲気作りを心掛け、清潔保持にも留意している。季節に応じた衣類や布団類の入れ替えについても、家族での対応が難しい場合には職員が対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人ひとりの「できること」を把握し、それらを活かし自立した生活が送れるようにしている。廊下や浴室には手すりを設置し安全面にも配慮している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105628
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの丘
所在地	松山市梅津寺町乙56-214
自己評価作成日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

梅津寺の高台にあるためテラスからは瀬戸内海が一望でき、リビングの広い窓から四季折々の景色を楽しむことができます。夏には三津浜の花見大会をベランダから見る事ができ、入居者様も毎年楽しみにされています。リビングや廊下も広く車椅子の方でもゆとりがあり、落ち着いて過ごせるようになっています。また浴室にはリフト浴を設置し安全に入浴することもできます。また、地域とのつながりも大切にしており、盆踊り大会や祭りなどの行事により周囲の人と触れ合う機会も多くもっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海を見渡せる高台に建つ事業所は、風通しがよく爽やかな印象を受ける。事業所内も大変清潔感があり、すみずみまで掃除、整理整頓が行き届いている。嫌な臭いも一切なく、感染症の予防等にも力を入れている。開設して10年になるが、徐々に地域の方とのつながりも増え、交流が深まってきている様子が伺える。利用者が重度化し終末期を迎えても、継続して事業所で過ごしてもらえるよう、看取りには積極的である。事業所で過ごすことにより家族の負担を軽くしながらも、出来る限り残される家族に悔いの残らないよう、家庭で穏やかに最期を迎えるのと同じように、職員が一丸となって支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの丘

(ユニット名) そらユニット

記入者(管理者)

氏名 岩城 恵子

評価完了日

平成27年10月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意識を踏まえた事業所の理念を作成し、職員や来客者の目にとまりやすい場所に掲示している。またユニット理念を別に掲げそれに基づいたケアを日々行っている。	
			(外部評価) 法人全体の基本指針や理念を、廊下に掲示している他、ユニットごとの理念も、職員が皆で考えて作成している。その理念を出入りロドアに貼ることで、来訪者・職員共に常に目につくように工夫している。「傾聴」という理念には特に思い入れが強く、利用者は皆、自身の思いを表出しにくい状態であることを理解し、訴えのサインを見逃さないよう、慎重に耳を傾けて聴くことを大事にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内役員のもと行事(盆踊り・運動会・文化祭・秋祭り)には、利用者も一緒に参加することで地域の方との交流が図れている。また事業所からも町内清掃に参加したり神輿を担ぐなどし地域の一員として役割を果たすよう努めている。	
			(外部評価) 盆踊りや地方祭など、地域行事には積極的に参加しており、地方祭では男性職員が神輿の担ぎ手として頼りにされている等、地域と事業所がお互いに助け合って交流している様子が伺える。地域の行事に招待され参加するだけでなく、事業所から積極的に地域へアプローチしていくことで、年々交流が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などの機会を利用し、グループホームでの生活を知って頂いたりしている。また地域の方々が気軽に見学・相談できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎に開催している運営推進会議では地域の方々と意見交換を行っている。また家族や利用者にも参加して頂きホームでの生活について話しをして頂いている。	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 運営推進会議には、毎回多くの出席者があり、民生委員が近隣の方を連れてくる等、徐々に参加者が増え交流の輪が広がっている。会議の内容については、事業所での外出行事の様子の報告や認知症についての講話など、毎回職員間で相談し、参加者からも希望を募って検討している。家族の参加が少ないことが課題であると感じている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者や地域包括支援センター・社会福祉協議会の職員にも参加して頂き、事業所の報告や意見交換をしている。また電話や直接訪ねたりすることで相談にもものって頂いている。	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 市の担当課職員や地域包括支援センター職員とは、日頃より交流があり、相談したりされたりする関係性が構築されている。特に地域包括支援センター職員とは、やり取りが頻回にあることもあり、お互いに相談しやすい関係性ができている。事業所の職員が地域包括支援センターへ出向く機会も多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強する機会を設け、職員全員が理解・把握できるようにしている。玄関は施錠せず入居者が自由に散歩できるように支援している。	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 事業所の玄関、ユニット出入り口ともに施錠はしておらず、自由に出入りができる状況であるが、ドアの開閉時にチャイムが鳴るようにしており、安全面にはきちんと配慮されている。また、ミトンや抑制帯等は一切使用せず支援を行っており、転倒のリスクを家族等へ充分説明した上で、細心の注意を払って見守りを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についても勉強会を行っている。またショートミーティングで意見交換を行い、虐待を未然に防ぐよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部勉強会や外部研修で学ぶ機会を作ってる。外部研修に参加した職員には、ユニット会議で報告するようにしている。また必要と考えられる利用者が活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約又は解約、改定時には入居者様や家族様に十分な説明をし、その際不安や疑問はないか訪ね、理解・納得して頂けるようにしている。また問い合わせがあれば早急に対応できるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話連絡の際、事業所から積極的に意見・要望をお聞きするようにしている。玄関に意見箱を設置し、投稿できるようにしている。	
			(外部評価) 家族との信頼関係構築は、とても重要な事柄であると考えており、管理者の指導の下、職員は皆、面会に来られた家族等とのコミュニケーションに積極的である。面会時に日頃の様子を細かくお伝えしたり、希望を伺う等、月に1回、各ユニット長が家族あてに利用者の様子を記載した手紙を送付している。一枚一枚手書きされた手紙には、職員の利用者と思う優しい気持ちが伺える。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のショートミーティングや月1回のユニット会議に職員の意見や提案を聞き、本部で行われている月2回の管理者会議でその内容を報告している。 (外部評価) 毎日行うショートミーティングは、職員間の情報交換・情報共有には大変有効である。また、日頃の気付きや不安感等は随時ユニット長や管理者に相談できる環境であり、管理者も気になる様子があれば積極的に声を掛けるよう留意している。年に一度、管理者と面接をする機会を設けている。産休明け間がない職員や子供がまだ幼い職員もいるが、お互いに助け合ってシフトを調整し、皆が気持ちよく働きやすい環境作りを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個別での面談を行い、各自がやりがいや向上心を持って安心して働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員に積極的に外部研修に参加してもらっている。研修後、レポートを作成し他の職員に伝えることで知識や情報を共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡会や地域包括支援センター主催の会に参加した際、意見・情報交換を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 生活歴や既往歴を踏まえた上で現在本人が困っていること・不安に思っていることはないか探り、安心して暮らしていただけるような関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、家族等から暮らしに関する悩み・要望・願いに耳を傾け、職員間で情報を共有し解決できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者と家族が今何を優先して必要としているのか納得するまで話し合い、対応できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 簡単な家事など一緒に行い、できないところはさりげなくお手伝いさせて頂くようにしている。また話題を提供したりされたりしながら共に支えあう関係づくりを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話や来所時に近況報告と同時に要望・思いをお聞きしている。共に考え協力を得ながら利用者を支えていけるような関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの病院や美容室も引き続き利用している。また入所前からの馴染みの方とも電話や面会も自由にして頂きこれまで大切にしてきた方との関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 入居前からのかかりつけ医や美容室を継続して利用できるよう支援している。また、以前からの友人や近隣の方の面会も多く、馴染の関係性が途切れないよう職員は常に気を付けている。自宅にいた頃からのかかりつけ医が、面会に来てくれる等、事業所は気軽に訪れることができるオープンな雰囲気である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し孤立せず交流が持てるような話題提供し支援している。またトラブルに発展しそうな時はさりげなく間に入るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次所にはサマリーを提供し環境変化に対応できるようにしている。サービス終了後も必要に応じ相談にのれるような態勢を作っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入浴や食事などの希望にできるだけ応えるようにし、利用者の生活のペースを大切にしている。自己判断が困難な場合でも、利用者のさりげない言葉や表情からも本人の思いを探るよう努めている。 (外部評価) 事業所開設当初から比較すると、利用者の重度化が進行しており、思いや意向を表出しにくい利用者が増えてきている。日頃の様子や表情、ちょっとしたサインを見逃さないよう、職員は常に注意を払っている。また、家族からの聞き取りも積極的に行い、利用者や家族の意向に沿った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 介護計画に本人や家族の意向を取り入れ、毎日ケアプランのチェック表を活用し経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録に細かく記録し、申し送りノートや毎日のショートミーティングで問題点や個別の支援方法を話し合い、職員全員で把握し実行するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 介護計画評価表を作成し毎日状況をチェックし、また毎月のユニット会議でも職員全員で話し合いモニタリングをしている。また家族や本人の希望を取り入れながら職員同士で意見を出し合い介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者毎に担当の職員を決めており、主にその職員が中心となってケアプランの原案を作成したり、モニタリング等を実施、記載している。また、ケアプランに位置づけた目標は、日々達成しやすい身近な事柄に設定されている。それぞれの目標が、達成できたかどうかの「評価表」を独自様式で作成し、毎日チェックしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 介護記録には会話・行動などや実践したケア内容・結果や気づきを記入し、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の希望があれば通院介助や買い物、美容院同行など柔軟に対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域行事にはできるだけ参加し、地域資源との協働を図っている。また入居者の行方がわからなくなった時は、町内放送など地域に協力して頂けるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望を大切にしながらほとんどの利用者が医療 連携をとっている医院の往診を受けている。また必要に応じ 歯科や専門科への受診にも同行している。	
			(外部評価) 入居前のかかりつけ医に引き続き外来受診している利用者も おられ、職員が外出を支援している。往診可能な協力医がお り、月2回の定期的な診察の他、緊急時には24時間体制で 対応してもらえる。また、近隣の歯科からの訪問診療体制も 整備されている。その他、皮膚科等へは職員が介助して受診 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職からアドバイスを受けてたり随時相談もしているが、往 診表を作成し職員全体で活用している。それにより適切な受 診が受けられるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院になった場合は、面会に行き病院関係者との情報交換し ている。また退院後の受け入れ体制も相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の対応に係る指針を作成し説明している。十 分な話し合いを重ねホームでできることについて家族の承認 を得ている。段階ごとに家族の意向を確認し主治医に報告し ている。	
			(外部評価) 入居時に、家族や利用者の希望に応じて、最期まで事業所で 看取ることができる旨説明している。これまでに数名看取っ ており、職員も徐々に経験を積み上げている状況である。病 状が悪化し一旦は入院したものの、最期は事業所で迎えたい と希望され、退院し事業所で家族や職員に見守られて最期を 迎えることができた利用者もおられる。穏やかに自然に、家 庭と同じような環境で最期を迎えることができるように心掛 けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて外部研修に参加したり、ホーム内での勉強会をおこない実践できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に西消防署の職員に来て頂き訓練指導を受けている。隣接している有料老人ホームに専任の防火管理者を配置し災害時の協力体制を築いている。	
			(外部評価) 隣接する有料老人ホームで食料品と水を備蓄している。事業所が高台にあるため、津波や水害時には避難せずに事業所内にとどまるようにと消防より指導を受けており、近隣住民が避難してくることも想定した量を備蓄している。年2回の避難訓練の他、職員間で避難手順の確認等を行い、実際の災害時に慌てずに行動できるよう訓練を重ねている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 不適切な言葉になっていないか職員間で話し合い注意しあうようにしている。人生の先輩であるということを常に念頭に置きケアに努めている。	
			(外部評価) 常に、利用者が不快に感じないことを最優先し、洋式便座での排泄介助の際には、膝の上にタオルを掛けて隠すように心掛ける等の配慮している。また、声掛けについても、その方の好みに合わせた対応や、場面に適した対応を臨機応変に行うように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる限り選択肢の多い中で自分が決められる「開かれた質問」をするよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の生活のペースを大切にし、入浴や食事の希望にもできるだけ応えられるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿って、身だしなみやおしゃれができるようにしている。季節に合った衣類が身につけられるよにアドバイスもさせて頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みや季節のものをメニューにできるだけ取り入れるようにしている。コミュニケーションがとれるよう職員を配置し楽しい雰囲気づくりに努めている。食器やテーブル拭きなど片付けも一緒に行うようにしている。	
			(外部評価) 法人の栄養士があらかじめ立てている献立を、事業所でアレンジしてメニューを決め、食材を宅配してもらっている。調理は職員が交代で行っており、手作りの出来立ての料理を提供している。また、最近は利用者が重度化しており、ミキサー食やきざみ食の方も増え、食事介助が必要な方も多いが、皆で楽しく会話をしたり声掛けをしたりしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人の状態や好みに合わせて食事内容・食事量や食事形態を変えているが、栄養バランスにも配慮している。ペットボトルや水筒にお茶を入れ居室でも自由に飲めるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。できるだけ自分でして頂くようにしているが、十分にできていない時は仕上げを手伝うこともある。口腔内の観察は行い異状があれば訪問歯科診療も受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 訴えのない利用者には排泄管理表を活用し排泄パターンを探り、時間誘導により失敗のないよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の重度化によりおむつの方が多いが、排泄のパターンを把握することで、排泄後できるだけ早くおむつ交換ができるよう心掛けている。また、トイレで排泄する利用者も含め、排便後は毎回薄めた石鹸水で洗浄するようにしており、日々の清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操を行ったり、水分補給もしっかり摂って頂くようにしている。乳製品（牛乳やヨーグルト）や植物繊維を多く取り入れよう調理工夫し薬に頼らないよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望日・時間に合わせて入浴して頂いている。マンツーマンでゆっくり話しをしながら入浴を楽しめるよう努めている。	
			(外部評価) 曜日を決めず、利用者の希望に応じて入浴してもらっており、概ね週に2～3回のペースである。浴槽にはリフトが設置されており、重度の利用者も浴槽でゆっくりと湯に浸かることができている。歩行状態が自立している利用者も、浴室では転倒の危険性が高いため、必ず見守りを行い、安全に入浴できるように留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 季節に応じた衣類や寝具を用意し、気持ちよく眠れるよう支援している。室温・湿度・騒音にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ボードやファイルを作り職員全員把握できるようにしている。また服薬時には声に出して本人と確認し服用して頂いている。症状変化や経過は口頭申し送りと記録に残し主治医に報告し指示を仰いでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の生活歴を把握し、好きなことや得意なこと、楽しみごとなどを生活に取り入れ張り合いのある日々が過ごせるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子や歩行器でも安全に散歩できるよう敷地内は整備されている。車での外出については下見を行った上で実行している。町内役員の方により盆踊り大会や運動会等地域の行事には優先席も準備して頂いている。 (外部評価) 月に1回は外出ができるよう計画し、外食をしたりドライブをしたりしている。車いすの利用者が増えてきたこともあり外出も容易ではないが、少しでも季節の移り変わりを感じ気分転換をしてもらいたいとの思いから、職員のシフトを調整して対応している。また、天気の良い日には敷地内を車いすで散歩する等、少しでも外へ出る機会を多く持てるよう心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭管理できる利用者には、家族の了解を得て自由に使えるよう所持して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分の電話を所持されている利用者もあり、プライバシーを守りながら各利用者に応じた手紙や電話の利用ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下やリビングは広く、落ち着いて過ごせるようになっている。また浴室やトイレ以外でも常に清潔に気を配っている。リビングの壁の一角には利用者と一緒に作成した季節感のある飾りつけをするようにしている。 (外部評価) 共用スペースは、きちんと整頓され掃除が行き届いており、とても快適な空間となっている。季節に応じた飾りつけを利用者と共に作って飾ったり、日付が分かりにくくなっている利用者のために、大きな日めくりカレンダーを貼って、毎日めくることを目標とする等、利用者と共に楽しく過ごせる空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファが置いてあり、自由にくつろげるようにしている。ベランダにはゆっくり座って海を眺められるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には昔から使っていた家具や馴染みのある物を置き、居心地よく過ごせるようにしている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が個室内の環境整備を行っている。自宅から鏡台やロッキングチェアを持ってきてもらったり、小物や写真を飾る等、家庭的な雰囲気作りを心掛け、清潔保持にも留意している。季節に応じた衣類や布団類の入れ替えについても、家族での対応が難しい場合には職員が対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人ひとりの「できること」を把握し、それらを活かし自立した生活が送れるようにしている。廊下や浴室には手すりを設置し安全面にも配慮している。	